

公共交通機関の利用促進

利便性の向上・サービス多様化による公共交通機関利用促進
 ■多様な運賃・料金の設定等によるサービス多様化

【継続】自動車交通部・交通政策部

バス事業における多様な運賃・料金の設定や運行サービス等の多様化により、公共交通機関への利用転換を促進します。

【27年度実績】

公共交通機関の利用を促進するために、下記のような運賃・料金が継続して実施されているほか、地域で開催されるイベントや社会実験等とタイアップした割引運賃が実施されました。

こうした特殊運賃や割引運賃については事業者自らの創意工夫による設定に加え、自治体と連携した取組みが増えています。

主な割引事例

| 種 類 | 内 容 |
|-------------|--|
| 環境定期券 | 定期券所持者に対し、休日の本人及び同伴家族の運賃の割引を実施例) 定期券券面表示区域以外に乗車した場合に、1乗車につき 大人1人100円、小児1人50円を支払う (広島県ではH23.8よりICカードPASPYによる支払いが可能となった) |
| 高齢者対象定期券 | 高齢者を対象に大幅な割引率を適用したフリー定期券 |
| 親子体験無料券 | 小学校の入学予定者と保護者を対象に無料券を配付し、通学路線バスの利用促進を図る |
| 運転免許証返納者割引 | 自動車運転免許証を返納した方を対象にした割引運賃(5割引等) |
| 学生を対象にした割引 | 学生を対象にした各種の割引 例) ● フリー定期券 ● 中学生・小学生対象定期券(夏休み等期間限定) ● 受験生・就職活動対象割引運賃 等 |
| 観光客を対象にした割引 | 観光客を対象に1日または数日間、一定のエリア内を自由に周遊できる割引運賃(エリアフリーパス等を設定) |

【27年度実績に対する評価】

各種特殊定期券や割引運賃の設定により、バス利用者に対するインセンティブや割安感を与えることで、公共交通機関を利用しやすい環境整備の造成に努めています。

環境定期券については、ICカードでの利用が可能となり、利用者利便も向上しています。

27 年度においては、小中学生を対象とした夏休み定期券や、学生を対象とする通学フリー定期券の設定、就学前の親子対象の体験無料券の設定など若年層・親子の利用を促進する運賃や、観光客や高齢者を対象とするさまざまな割引運賃が設定され、バスの利用促進に一定の効果を上げました。

【28 年度施策】

引き続き、バス事業における多様な運賃・料金の設定や運行サービス等の多様化により、公共交通機関への利用転換を促進する取り組みをすすめます。